

第3回 女性航空教室 Yes I can! 女性たちよ 航空業界を目指せ!

16歳から26歳までの女性のみが対象の「女性航空教室」Yes I can! が2017年12月3日に開催されました。今年で3回目となる同教室には申込者53名、出席者41名で半数強が大学生、専門学校20%、高校生13%その他社会人であり、その参加動機は「就職に航空業界を考えているので、多くの情報がほしい」ということです。パイロットなど職種の方針性がはっきりしている人もいれば、職種は決めていないが航空業界に入りたいという人も。会場は東京・新橋の航空会館、主催は航空関連4団体（別欄参照）。航空機製造技術者、航空整備士、パイロットという専門的分野に特化し、朝10時から午後5時まで丸1日かけた中身の濃いプログラムが目白押しです。プレゼンテーションとグループディスカッションを通して将来像を結んでほしいというのが狙いですが、はたして彼女たちは答えを見つけることができたのでしょうか？

レポート：吉巳 香
写真：堀川典子



プレゼンテーションで仕事を理解する

主催者側のあいさつ、オリエンテーションの後、製造技術分野である新明和工業の岡崎さんと住友精密工業の水品さんのプレゼンテーションがはじまりました。講師は各自会社の事業内容、仕事内容、志望動機や就職過程などを持ち時間20分で簡潔に披露してくれます。会場は私語も全くなく、みんな食い入るように見つめ、その真剣さが伝わってきます。

製造技術分野はあまり知られていないこともあって、こんな仕事もあったのかという驚きと興味が芽生えたのではと思います。特に岡崎さんは妊娠、出産を経て現場で課長として働くという話を披露いた

き、女性教室ならではの話題はその後のディスカッションへとつながっていきました。

続いて航空整備士として現場で働く全日本空輸の樺山さんとJALエンジニアリングの武村さんが会社ロゴの入ったカバーオール姿で登場。一概に整備士



国土交通省航空局安全部
運航安全課乗員政策室長
梅澤大輔氏

経済産業省製造産業局
航空機武器宇宙産業課
航空機部品・素材産業室長
斎藤賢介氏

一般社団法人
日本航空宇宙工業会
常務理事 山北和之氏



集まった受講生のみんさん

と言ってもドック整備とライン整備があること、先の技術者の方とも共通しますが、英語能力が必要とされることなどの話が印象に残りました。

午前中の最後は小型機部門の現場で活躍するエアバスジャパンの櫻井さんと中日本航空の整備士、勝田さんのプレゼン。櫻井さんはグライダーの世界記録保持者ですが、飛行機とヘリのプロパイロットと整備士のライセンスを持つスーパーウーマンでもあります。その就職時の苦勞と紆余曲折の航空人生についてユーモアたっぷりに語っていただきました。勝田さんは広島運航所でヘリを任される現場の整備士。年齢の近さもあって現場の楽しさと苦勞が出席者の共感を得られた模様です。

午後からはいよいよパイロットのお二人の登場。ピシッと制服を着こなした JAL の師子鹿さんと ANA ウイングスの君塚さんです。JAL の自社養成パイロットとして就職したものの、JAL 経営難から訓練中止、7 年間の地上職時代に前向きに仕事に取り組んだ師子鹿さんの話は、驚きとともに多くの感銘を与えた様子です。東海大学操縦専攻からパイロットに進んだ君塚さんは、普段の仕事の流れやパイロットになってよかったことを楽しく語ってくれました。

JWAA 理事長講話「女性の視点から見た航空業界～これまでと現在、そして将来～」



一般社団法人
日本女性航空協会 鐘尾理事長

プレゼンテーションが終了したところで、当協会の鐘尾理事長からの講話。参加者の緊張をほぐ



1979年東南アジア親善訪問飛行

しつつ、日本の女性と空の歴史や、エアライン各社情報を提供しました。日本には多くの航空会社があり、多くの女性パイロットと整備士が活躍している現状をデータとしてまとめ、各社のコメントから積極性のある女性を求めていることを理解していただけだと思います。

グループディスカッションで仕事と私生活に迫る

毎回の教室の目玉は 10 名程度のグループになって、講師との突っ込んだ話し合いが持てることでしょう。プレゼンで紹介された話で興味を持ったこと、詳しく聞きたいこと、仕事上の苦勞や悩みなどで、次第に熱を帯びてきました。各講師は次々にそして繰り返し輪の中に入ってゆき、参加者に積極的な質問を促し、ものおじしがちな若い女性たちの口を開かせてゆきます。

妊娠、出産、子育てなど女性特有の課題もここでは話題の大きな柱となっています。志望ははっきりしているのに、そのようなナマの話を聞きたかったという参加者も多かったようです。グループディスカッションは 2 時間に及び、講師も笑みを絶やさずディスカッションを繰り返してくれました。終わった時には講師も参加者もかなり疲れただろうと想像しますが、最後は笑顔の写真撮影で教室は終了しました。



4つのグループに分かれディスカッション

「何を求めて参加したのですか？」女性たちに聞きました

Iさん：大学農学部 航空部

大学まで何も知らずにきました。理工学部でないし、身長が1mm足りないの、パイロットだけでなく他の航空関係の仕事も調べようと思っています。

Sさん：高校3年生

父が飛行機好きで、成田空港へよく見に行ったり

していました。中学ごろから自社養成のエアラインパイロットになりたいと思っていますが、絶対になれるとは限らないので、他の航空関係の仕事、管制官なども考えています。英語の資格を取る予定です。

Kさん：大学理系1年生

父が ANA のパイロットで、やはりパイロットを目指していて、参加は2回目です。他の航空関係の職種も視野に入れていきます。

Nさん：大学理系3年生

航空宇宙学専攻なのでぜひ航空業界で働きたいと思っています。航空部の先輩にもエアライン整備士がいるのでそれも選択肢に入っています。

Iさん：高校2年生

絶対 ANA のパイロットになると決めています。今後の進路の情報収集中です。

開催日が例年の3月から12月に変更されたことで、期末試験期間に重なったため例年より高校生の参加が少なかったものの、大学生は関東だけでなく関西や九州からも来てくれました。優秀な人材を航空業界に導くことを期待するこのプログラムは例年続けていく必要があると強く思った一日でした。

各講師のプレゼンテーション概要

新明和工業 航空機事業部 岡崎都史子さん

新明和工業の航空機事業の一つに US-2 という水陸両用航空機の製造があります。US-2 は海上自衛隊で救難艇として活躍しており、この40年で1000人以上の救助の実績がある機体です。妊娠出産ののち資材管理課の課長となりましたが、機体が出来上がって納入する姿を見ると涙が出るほど感動します。ゼロから空に飛びあがっていく過程がわかり、チームワークと達成感を味わえるのです。人の命を救っている、プライドをもって働けることがい



ころだと思っています。32,000点に及ぶ部品管理と発注に必要な英語が少し大変でしたね。

**住友精密工業 航空宇宙生産部生産技術課
水品明日香さん**

私の部署は航空宇宙をメインにやっていて、航空機の脚システム、プロペラ、空調関係です。脚システムは世界シェア15%。生産技術の仕事は設計者と製作現場をつなぐもの。最適な組立てスケジュールやレイアウトを考え、目標の機数達成を目指します。装備品メーカーは地味だが、1から経験でき、自分の思いを入れて価値を決めることができます。それは世界の飛行機を変えることへもつながるのです。夢は世界中の機体を変える！いいシステムを開発すれば世界中の機体が変わる。自転車に乗る感覚で飛行機に乗ってほしいと思います。



ANA 整備センター 機体事業室 樺山紀子さん

組織はオペレーション部門の整備センターの機体事業室のドック整備部。ドック整備は2日以上格納庫に入れ、エンジン交換など時間がかかる整備をします。客室改修などもあり。次の運航便に影響のかわからないように作業を進めます。

大学の専攻は教育学部で地球科学を学び、2009年 ANA 入社し4年目から5年目に一等航空整備士を取得 (B777)、2015年に現業スタッフ部門でドック整備サポートになりました。中国やシンガポールで重整備を行うがそのサポートもリモートで行い、現地に行くこともありますので英語は慣れるまで時間がかかりました。

やりがいは現場ではチームで大物交換時の朝飛行機が飛んで行った時の達成感。挫折は教育学部からなので、一等航空整備士の受験が苦労しました。挑戦したいことがあれば、自分からボーダーを引かな

いで、やってみると意外に上手く行くかもしれないもの。どんどん挑戦してほしいです。



ANA 整備センター機体事業室 樺山紀子さん

JAL エンジニアリング 羽田航空機整備センター
武村智子さん

JAL グループで整備に特化した会社です。運航整備に所属し、B737 は便間約 50 分間で点検を行っています。到着前フライトデータを確認したりし、到着を待って、電源をつなげエンジンが止まったら、仕事がスタートします。国内線の仕事が主だが国際線の時は英語が必要となり、勉強がもっと必要と思っています。

中央大学理工学部入学後、整備士になりたいと専門学校に入りなおしました。専門学校では航空機の基礎を学ぶことができ、同じ志を持つ仲間ができたことが良かったですね。2010 年入社、一整取得が現在の目標です。専門学校でなくても一般大卒でも会社で教えてくれますので多くの女性に目指してほしいです。



JAL エンジニアリング 羽田航空機整備センター 武村智子さん

エアバスヘリコプターズジャパン 運航訓練部
櫻井玲子さん

神戸空港にあるトレーニングセンター所属で、座学教官、教材開発、通訳が主な仕事です。マニユア

ルはすべて英語でそれを基に日本語で教育することとなるので英語は必須です。東南アジアからオーストラリアまでのテリトリーをカバーしているので英語での授業もしています。

ヘリのパイロットの仕事は多岐にわたり、官公庁、民間、消防、救助、警察など。危険な仕事なので訓練が重要です。ドクターヘリも今増えており、人員輸送、離島の航路、物資輸送、社有機、オーナー機運航などがあります。

ヘリコプターパイロットになる方法はいろいろあるが知られていない現状があり、奨学金制度もある。今は女性も職業選択にパイロットが当たり前ですから、パイロット不足が深刻なので興味をもったら次の世界に飛び込んで行って下さい。



エアバスヘリコプターズジャパン 運航訓練部 櫻井玲子さん

中日本航空 整備士 勝田悦代さん

広島運航所勤務で、ドクターヘリや報道ヘリなど多岐にわたる。整備は運航整備、工場整備、耐空検査等の点検、交換修理などがあり、技術が必要な場合は本社から呼ぶ体制です。工場整備に比べ、運航整備は一人で担当できるのでやりがいを感じます。分解組み立て後の試運転エンジンスタートは緊張する一瞬です。試験飛行ではパイロットの隣に座り、操



中日本航空 整備士 勝田悦代さん

空のフック

作をパイロットに指示します。飛行中に振動値を測定し、振動が少なくなるよう調整し機体を仕上げていきます。整備士に大切なものは工具、大切なことは英語力とコミュニケーション。誠実にやることも重要と考えます。

JAL B737 副操縦士 師子鹿桜さん

2008年入社し、1年は旅客など地上職。2年目の訓練開始直前にJAL破綻で訓練中止。そのとき総合職として残ることを選択しました。入社7年目にやっと訓練が再開となり、2014年に準定期航空運送操縦士MPLのプログラム第1期生として訓練を始めました。訓練はとてつもないですが、それだからこそ充実していて、同期8人は一生の仲間となりました。ただ、純粋に空が好きでパイロットを目指したのですが、飛行機の知識はなかったので入社時に同期と比べて愕然としました。



JAL B737 副操縦士 師子鹿桜さん

総合職の時の仕事も楽しかったのですが、パイロットの仕事もとっても楽しいです。体力的に身体が慣れるまできついけれど充実感がある仕事です。天候が悪い時など、頭と腕の見せ所で、無事にお客

様をおくる喜びは他の仕事では味わえないと思っています。1日3～4レグ60時間から70時間飛び毎日です。

この仕事は女性に向いてる仕事だと思います。マルチタスクができるのが女性ですからもしかしたら男性より向いているのかなど。客室乗務員からも女性のほうがやりやすいと言われることもあります。

ANA ウイングス B737 副操縦士 君塚詩帆さん

東海大学航空操縦専攻後 ANA ウイングス入社3年目、福岡ベースで勤務しています。ANAのドキュメンタリーでANAの女性パイロットの特集を見て、私もなりたいたったことがきっかけ。高校も陸上部でありあまり勉強せず迷っていた時に初めて同専攻を知り、進学しました。

普段のフライトは、だいたい2泊3日、1日4便から5便飛んでいます。搭載用航空日誌を見るときや外部点検時など整備士さんともよく話をしますが、いろんな人に助けをもらいながら仕事をしていると思います。お客様に感謝していただいたり、天気が悪いとき、待機後タイミングを図って降下し、



ANA ウイングス B737 副操縦士 君塚詩帆さん

トータルコーディネートされたプログラムが就職の機会拡大と人材の早期戦力化を図ります。

株式会社 A.R.T.
アビオン エアラインスクール

東京 東京都港区元赤坂1-1-15 ニューヨビル7階
電話 03-6804-6184 FAX 03-6804-6183
E-mail : info@avion-air.com
<http://www.avion-air.com>

大阪 大阪大阪市北区梅田1丁目3-1 大阪駅前第一ビル3階
電話 06-6136-3110 FAX 06-6136-3111

霧の中から滑走路が見えて無事着陸できたりするとパイロットになってよかったと感じます。仕事の達成感があるのです。

パイロットになるためには理系や英語が必要かと聞かれますが、普通で OK。それより一人では飛ばせないのコミュニケーションや素直さが大事だと思います。

全体を通じての所感

ほんの 30 年前まで、パイロット、航空整備士、航空機製造技術者にはほとんど女性はいませんでした。それが 1986 年の男女雇用機会均等法の施行を境に、それまで男子に限るとされていた職場の門戸が解放されていき、それにともなって、今まで男性の職種と思われていた分野にも、少しずつ女性が進出していきました。今回、講師として来ていただいた方々の多くは、それぞれの職場で、パイオニアとして活動されてきました。初めてのことばかりで、いろいろとご苦労もあったことと思いますが、年月を経て、女性であっても男性と同じようにいい仕事ができるのだということを見事に証明し、さまざまな分野での「女性の活用」という流れを作っていたのだと思います。

女性には特有の、「私にこんなことができるのだ



講師陣のみなさん

ろうか」「こんなことはとても無理」と思いがちですが、このような場合にも背中を押してくれる先輩方の言葉があれば、思った道をまっすぐに進んでいけるのではないのでしょうか。また、一生仕事を続けていくとなると、妊娠、出産、子育てという男性にはない人生の一大イベントにも直面することもあります。これを乗り越えていく力にもなると思います。そのような観点からみて、この女性航空教室はこれからも続けていく意義があると強く感じました。



本音で話し合ったグループディスカッション



主催：一般社団法人 日本航空宇宙工業会
 公益社団法人 日本航空技術協会
 公益社団法人 日本航空機操縦士協会
 一般社団法人 全日本航空事業連合会
 後援：国土交通省航空局
 経済産業省製造産業局
 協力：一般社団法人 日本女性航空協会
 一般財団法人 日本航空協会

最後は輪になって、Yes I Can!